



明化の教育

7月号(第502号)

令和4年7月1日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

“つなぐ”ことを意識して

校長 熊倉 勝



地下の基礎工事が終わり、新しい校舎の概形が見えてきました。来年の7月にI期工事が完了する予定です。

6月11日に体育学習発表会を無事行うことができました。保護者の皆様には、子供たちの活躍に大きな拍手をいただき、本当にありがとうございました。体育館で行ったため、学級ごとの発表になりましたが、子供たちが笑顔で、生き生きと表現する姿に心を動かされ、目頭が熱くなりました。校庭に比べて子供たちの表情を近くで見ることができるため、その気持ちをより強く感じることができたのでしょう。子供たちも保護者の方々の姿を間近に見ることができるため、うれしさが倍増し、自然と笑顔になり、生き生きと表現することにつながったのだと思います。体育館ならではのよさなのではないでしょうか。また、演技の後に短距離走やリレー、綱引きなどの団体競技を行うなど、運動会の雰囲気但至少でも

味わえるように工夫して取り組んだ学年もあり、保護者の皆様にも楽しんでいただけたと思っています。

この体育学習発表会を通して、子供たちが一つの目標に向かって力を合わせて取り組み、その姿を多くの方に見ていただいたことで、子供たちは大きく力を伸ばし、達成感を味わうことができました。皆様の拍手が子供たちの自信につながったことに違いありません。また、子供たち同士で、他学年の演技を見合う時間をリハーサルの時に作りました。さらに、練習時の様子をビデオ撮影し、各教室で鑑賞することができるようにもしました。そして、当日の6年生の発表は、各教室にオンライン配信しました。最高学年の本番の演技を1～5年生の子供たちに生で見せたいという思いからです。このように互いに演技を見合うことが、大いに刺激となり、演技に向かう意欲を高め、上の学年への期待感につなげることができました。コロナ禍で、なかなか他学年との交流が難しい状況の中、異学年交流という意味でも価値のある行事になったと実感しています。

今年度は、今回の体育学習発表会のように“つなぐ”ことを意識して、教育活動を進めていきたいと考えています。この“つなぐ”には、二つの意味があります。一つは、自分自身の中でつなぐこと。もう一つは、次の学年につなぐことです。例えば、体育学習発表会で考えると、「自分自身の中でつなぐ」とは、体育学習発表会で得た達成感や自分の成長を次の学習への意欲につなげていくことです。一方、「次の学年につなぐ」とは、他学年の演技を見ることを通して、次の学年への期待感につなげていくことです。本校では、仮設校舎等に子供たちの図工作品を掲示していますが、子供たちが日常的に作品を鑑賞することで、「〇年生になったらこの作品を作りたい」という気持ちを自然ともつことができ、これも「次の学年につなぐ」意味で、とても大切な活動であると考えています。このような“つなぐ”活動に力を入れて、子供の主体性を育んでいきたいと思っています。

一学期も、いよいよあと一か月となりました。7月は一学期の学びのまとめの月でもあります。各学級では一学期を振り返り、子供たちが自分自身の成長と、さらに努力すべき点についてしっかりつかむことができるように指導して参ります。今学期も学校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

